

視察研修行程表

議席番号 (7) 議員名 (伊藤幹夫)

1 2017年6月27日(火)～29日(木) (日数 2泊3日)

2 場	所	広島県	神石高原町
		島根県	邑南町
		島根県	江津市
		広島県	呉市

3 視察、研修事項

6月27日(火) 広島県 神石高原町
「広島から全国へ殺処分0に」
(ふるさと納税事業)
・取組に至る経緯
・取組の成果
・今後の課題について

28日(水) 島根県 邑南町
「移住・定住対策」について
*日本一の子育て村構想について
*A級グルメ構想について
*徹底した移住者ケアの取組について
・取組に至る経緯
・取組の成果
・今後の課題について

江津市
山陰の「想像力特区」へ
「江津市ビジネスコンテスト」について
・取組に至る経緯
・取組の成果
・今後の課題について

29日(木) 広島県 呉市
「呉地域フィルムコミッション」について
・取組に至る経緯
・取組の成果
・今後の課題について

4 参加者	◎渡邊 孝一	伊藤 幹夫
	中村 久信	佐貫 薫
	中村 有子	
	富本 妙子	

5 行程

6月27日	矢板発 6:14・片岡発 6:19 (JR) = 宇都宮着 6:45/発 7:02 (JR 新幹線) なすの 260 号 = 東京着 7:56/発 8:10 (JR 新幹線) のぞみ 15 号 = 福山着 11:44 (レンタカー) = 神石高原町役場着 13:50/ 14:00~15:30 (広島から全国へ殺処分 0 について) 視察研修 (レンタカー) = 東城 IC = (中国自動車道・浜田自動車道) = 瑞穂 IC = 邑南町着 18:00/泊
28日	宿発 9:00 (レンタカー) = 邑南町役場着 9:15/ 9:30~11:00 (定住・移 住・定住対策について) 視察研修 = (レンタカー) 瑞穂 IC = (浜田自動 車道・江津自動車道) = 江津 IC = 江津市役所着 13:15/13:30~15:00 (山陰の想像力特区へ「ビジネスプランコンテスト」について) 視察研 修 = (レンタカー) 江津 IC = (江津・浜田・中国・山陽自動車・広島高 速・呉道路) = 呉 IC = 呉市 18:00 着/泊
29日	宿発 9:00 (レンタカー) = 呉市役所着 9:15/9:30~11:00 (呉地域フィ ールドコミッションについて) 視察研修 (レンタカー) = 呉 IC = (呉道 路・広島高速) = 府中 IC = 広島駅着 15:00/15:17 発のぞみ 36 号 (JR 新幹線) = 東京着 19:13/発 19:28 (JR 新幹線) やまびこ 219 号 = 宇都宮 着 20:22/発 20:32 = 片岡着 20:58・矢板着 21:02

7	議会事務局	神石高原町	TEL 0847-89-3340
		邑南町	TEL 0855-95-1113
		江津市	TEL 0855-52-7498
		呉市	TEL 0823-25-3246

8	宿泊施設	6月27日	邑南町	いこいの村しまね	TEL 0855-95-1205
		6月28日	呉市	呉阪急ホテル	TEL 0823-20-1111

神石高原町	昼食
-------	----

邑南町	宿泊
-----	----

江津市	昼食
-----	----

呉市	宿泊
----	----

2017年6月27日(火) 広島県神石高原町視察

「広島から全国へ殺処分0に」(ふるさと納税事業)について

神石高原町概要

合併 平成16年11月5日(郡内3町1村)

面積 381.81 km² (広島県の約1/20を保有)

山林81%、耕作地4%、その他14%

標高 400m~500m(最高峰835m)

春は新緑、夏は涼夏、秋は紅葉、冬は白銀と四季折々の風情を満喫できる。

人口等 (平成29年4月1日現在)

人口9,442人 世帯数4,007世帯 高齢化率45.4%

経済圏 福山市(福山東ICまで約30km 約40分)

神石高原町資料より

(歓迎挨拶) 議長

松本 彰夫

(事業説明) まちづくり推進課

主査 森元 勝士

主任 伊勢村 正人

議会事務局

事務局長 柏床 由夫

神石高原町では高齢化率の上昇により、止むを得ず定点回収（飼えなくなった動物を処分）に引き渡す事例が多くなってきた。また、広島県では動物愛護管理推進計画を策定し殺処分の 5 割減を目標として、平成 23 年 7 月から、引取りの有料化に取り組み、定点数の縮小に努めている。

そんな中、熊本市動物愛護センターでの取り組みをはじめ全国で殺処分を少なくする取り組みが行われ動物愛護に関する気運の高まりを見せてきている。

こうした状況の中、平成 24 年 4 月に町内の NPO 団体ピースウィンズ・ジャパンから「犬の殺処分ゼロ」に取り組みたいという申し入れがあり、町でも検討することとなった。

平成 25 年度には広島県内で約 1600 頭（全国ワースト）が殺処分された。

このことを重く受け、平成 25 年 9 月 20 日動物愛護週間より、広島から殺処分ゼロを全国へ広げるため、ピースウィンズ・ジャパン（PWJ）が運営する「ピースウィンズ・ジャパン」プロジェクトが立ち上げられ、{広島県の犬の殺処分ゼロを目指す「1000 日計画」}が始動した。

方策として、保護した犬を、(譲渡する)・(救助犬・セラピー犬として育成する)・(保護施設で終生飼養する)などが挙げられたが、施設の拡充や人件費、医療費、フード代、施設の維持補修、水道光熱費、交通費などの多額の費用が必要で、とても良い取り組みだが、町財政からの直接的支援はとても難しいため、PWJから先進地事例の紹介もあり、「ふるさと納税」制度も活用を検討し、「協働」のまちづくり推進のため、PWJをはじめ、他の団体の活動支援も積極的に行えるよう、ふるさと納税による寄付の使途に団体支援として「町内の自治振興会」及び「町内に主たる事務所を置く NPO 法人」を指定できるよう平成 26 年 4 月に条例改正を行った。

ふるさとチョイスが提供するサービス、GCF による寄付により平成 26 年度、78,623 千円、27 年度、384,886 千円、28 年度、531,444 千円と目標 10 億円に近付いている。

今年度 4 月から広島県内の犬殺処分ゼロ継続中で、2020 年の東京オリンピックまでに日本の犬の殺処分ゼロを目指す。

今後の PWJ の取り組みとして、譲渡センターの新規開設、保護施設の拡充、人材育成、保護犬・猫を迎えることをスタンダードにする啓発活動を行うということだ。

PWJ との協働取組による町への貢献として、

- ・町の宣伝・イメージアップ
- ・雇用拡大に伴う移住者増加

(殺処分ゼロ事業に係る移住者約 30 名)

- ・町内への経済的波及

平成 27 年度の返礼品代約 2,000 万円

- ・町の財源に

寄付額のうち 5%は町へ

平成 27 年度は約 2,000 万円

平成 28 年度は約 2,500 万円

などがある。

なお、寄付者は関東、関西が多く、広島県内からは約 2,500 万円、栃木県からは約 370 万円、残念ながら矢板市からは 0 円ということである。

昨今、「ふるさと納税」の返礼品の見直しが国から要請がある中、このように、「物」ではなく、「事業内容」に賛同を得て「ふるさと納税」を活用することが本来の目的なのだろう。矢板市としても、先進地事例をリスペクトし、参考にして取り組んで行くべきだと思う。

6月28日(水)午前 島根県邑南町

「移住・定住対策」について

邑南町概要

合併 平成16年10月1日 (2町1村)

島根県の中央部 盆地の多い地形

標高 100m～600m

面積 419,29 km²

世帯数 4,981 世帯

人口 11,092 人

高齢化率 43,2%

主な産業 農林業

平成29年4月1日現在 邑南町資料より

(歓迎挨拶)	副議長	清水 優文
(事業内容説明)	定住促進課 課長補佐	田村 哲
	農林振興課 課長	植田 弘和
	係長	寺本 英仁
	議会事務局 局長	大賀 定

邑南町は平成 16 年 10 月 1 日町村合併をし、発足 13 年目を迎え、「豊かな自然とそこから生まれる人のつながり、家族の温もり」を「邑南町の誇り」として、さだまさしさんを通じて全国にアピールしている。

町は島根県中央部の山間部にあり自然豊かな地域であるが、広島市が 60 分圏内という立地にあるため、消費の約 5 割が広島市に持っていかれてしまうという課題があり、また、少子高齢化により、急激な人口減少問題が顕著となってきた。

町では危機感を感じ、平成 23 年度より「攻めと守りの定住プロジェクト」を事業化し、以下のことを推進した。

(1) 「攻め」の A 級グルメ構想・・・5 年間

「A 級グルメ構想」商標登録

「食」と「農」を切り口にしたまちづくりを推進する邑南町のキャッチフレーズとして「A 級グルメのまち」を 2011 年 3 月に商標登録し、優れた食材や生産者の誇りも込めたネーミングで町全体をブランド化し、認知度やイメージの向上につなげている。

A 級グルメ構想とは、地域の誇り（ビレッジプライド）を育むこと

であり、美味しいものは地方にあって、美味しいものを知っているのは地方の人間であるという自覚を持つことである。

～ここでしか味わえない食や体験～をコンセプトに5年間の成果を数値化すると、①定住者の確保目標 200 名に対し、240 名 (120%) ②観光入込客数目標 100 万人に対し、92 万人 (92%)、③起業家目標 5 人に対し、結果 43 人 (860%) という結果が得られた。

成果目標以外の成果として、①3年連続社会増の達成、②メディア等による A 級グルメ構想の発信による知名度のアップがある。

「A 級グルメのまち」の取り組み

- ・平成 23 年に A 級グルメの拠点施設となる地産地消のイタリアンレストランと加工場を併設した「素材香房 ajikura (味蔵)」を開店 (運営は町観光協会)。
- ・質は良いが量が少ない邑南町の特産品 (石見和牛、石見ポーク、ハーブ米、高原野菜、キャビアなど) を活かしここでしか味わえない食や体験を「A 級グルメ」として地域ブランド化。
- ・UIJ ターン者である料理長、ソムリエ、パティシエ等と町内で、起業・就職を目指し全国から募集した「耕すシェフ」が、野菜の栽培から、食材の研究、料理の提供まで行っている。

- ・インターネットでのA級グルメの販売も行う。
- ・食の学校や農の学校の立ち上げ。
- ・地域おこし協力隊の導入実績

総受入数 38 名、現在 25 名、定住者 8 名 (34.7%)

「日本一の子育て村」の取り組み

- ・公立病院の産婦人科・小児科専門医の常勤による 24 時間 365 日の救急受付。
- ・第 2 子以降の保育料完全無料化。
- ・3 世代家族の近居のための住宅建築費の助成等を実施。

「徹底した移住者ケア」の取り組み

- ・自身が I ターン者である定住支援コーディネーター（常勤職員 2 名）と公民館長等の人望が厚く地域に精通している定住促進支援員（2 名）により、徹底した移住者ケアを実施。
- ・移住者に事前に集落住民と話し合いをしてもらい、円滑な生活がスタート。
- ・移住者全員に目配りし、仕事から生活まで、あらゆる相談に応じ、サポート。

これらの取り組みにより、直近の5年間の人口減少が鈍化し、推計より人口が多いということは施策が功を奏していることが見受けられる。

特筆すべきは、平成27年、合計特殊出生率2.46人と全国平均よりはるかに上回り、注目すべきは0～14歳、25～34歳の転入が増加し、合併10年目ではじめて20人増となり、社会動態が3年連続で増加している点にある。

矢板市においても、具体的な将来像（グランドデザイン）を明確にし、3～5年間に施策の点検（PDCAサイクルの活用）を行い、雇用の創出を中心に人口減少対策を積極的に行うべきだと感じた。

6月28日(水)午後 島根県江津市

「江津市ビジネスコンテスト」について

江津市概要

住みよさランキング 453位

将来都市像の下、人口減少に歯止めをかけるための各種の定住促進施策を推進。全国的にも先駆的な取り組みである空き家活用事業をはじめ、起業家のU・Iターンを促すビジネスコンテストなど、さまざまな視点から施策を講じる。2010年オープンの道の駅「サンピコごうつ」も交流人口の拡大と市のPRに貢献している。

面積 268.24 km²

世帯数 11,470 世帯

人口 24,468 人

高齢化率 36.6% 平成27年国勢調査

特産品 石州瓦、石見焼、水産練製品、勝地半紙、桑茶、ごぼう、
あゆ、まる姫ポーク

(歓迎挨拶) 議長 田中 直文

(事業説明) 政策企画課 地域振興室 室長 中川 哉

総括主任 植田 紘司

(議会事務局) 局長

大屋 功

江津市は、暮らしやすさランキング全国第 3 位で、再生可能エネルギーに力を入れ、市内全世帯が使用する電力量の約 5 倍を発電し、面積の 2 割程度を占める平坦地（市街地）に、人口の約 8 割が居住し、商工業が集積している。また、面積の約 8 割を占める農山漁村は、豊かな自然が残され、主要産業は農林産業や建設業である。

人口の将来予測とビジョンは、江津市の独自推計では、2040 年目標 17,300 人に対し、社人研推計 15,600 人、日本創生会議推計 14,000 人と予測されている。

人口減少は、15～29 歳の若年世代の人口流出が最大の要因で、そのためには、守りの定住対策として、田舎暮らし志向の都市住民を江津市へ移住させる仕組みづくりの構築をする必要があった。

1990 年代～、田んぼのオーナー・桑の実摘みツアー・川エビとり体験&バーベキューなど、田舎暮らし体験や交流事業を行った。

また、空き家バンクを利用した移住者が平成 18 年度～28 年度が 317 人と実績があり、I ターン者が農林水産業を支え、集落を支え、地域活性化の一翼を担ってきたが、リーマンショック以降、住むとこ

る「空き家」は紹介できても、働くところが紹介できないという定住対策に課題が表面化した。

そこで、働き場がないなら、働き場をつくり出すことができる「人材」を誘致できないか？ということで、ビジネスプラン・コンテストをやろう！とはじまった。

攻めの定住対策、「企業誘致」から「人材誘致」⇒「起業誘致」へ、雇用を生み出す起業家を誘致する発想から、Go-Con（ごうつビジネスプラン・コンテスト）の仕組みづくりに取り組んだ。

江津市は近隣市町を合わせても 10 万人くらいの市場に過ぎず、営利目的の事業を成り立たせるのは容易ではなかった。ならば、ソーシャルビジネスやコミュニティビジネスが活力や雇用を創出するという流入の仕組みづくりをし、地域に根づく地域のための小さな仕事おこし、雇用の場づくりを目指すため、総務省 2010 年度過疎地域自立活性化推進交付金 10.000 千円を活用し、過疎地域の課題解決型ソーシャルビジネス等創業支援事業に取り組み、2010～2016 年度の間に、11 件の大賞受賞があり、14 件が創業した。

成果として、

- ・若者を支援する組織 NPO 法人てごねっと石見の設立（行政がやっ

ても、職員の継続性がないためできない。)

- ・ 創業者や地域プロデュース人材を輩出。
- ・ 空き家店舗活用が増加。
- ・ 仕事の多様性。
- ・ 若者のネットワークの広がり（若者たちの連鎖により、3年間で22店舗の空き家が埋まった。)

があり、Go-Conは2015年に「第5回地域再生大賞」を受賞した。

結果として、チャレンジを応援するオープンな土壌が生まれ、「世話焼きマッチング・タウン」人と人とをつないでくれる人や場が充実、「市役所のインキュベーション機能」Go-Conをはじめソフト面の支援が充実、『山陰の「クリエイティブ・クラス」が集う街・カッコいい先駆者たちが多くいる』という江津市独特の価値が生まれた。

急速な人口減少、伝統産業の衰退、若者の流出といった地域課題山積の中、定住対策には産業振興が欠かせないとの考え方から生まれた取り組みであり、矢板市においても若者の人口減少が顕著な中、このような先駆的なモデルを参考にチャレンジを応援するオープンな土壌づくり、攻めの定住対策をして行かなくてはならないだろう。

6月29日(木) 広島県呉市

「呉地域フィルムコミッション」について

呉市概要

住みよさランキング 677位

県西南部、瀬戸内海に面した港町。天然の良港である呉湾は東洋一の軍港として栄えた。戦後は、造船・鉄鋼業中心に発展。2000年に特例市に指定。2003年4月に下蒲刈町を、2004年4月に川尻町を、2005年3月に音戸町・倉橋町・蒲刈町・安浦町・豊浜町・豊町を編入合併。2016年4月には中核市は移行。

面積 352.80 km²

世帯数 109,798 世帯

人口 228,635 人

産業 造船・鉄鋼

(歓迎挨拶) 議会事務局 局長 有田 真

庶務課 副主任 山中 剛

(事業説明) 産業部観光振興課 課長補佐 宮永 雅弘

呉地域フィルムコミッションは、平成 15 年 6 月 10 日、呉市と周辺町の行政及び観光関係事業者等で構成する「呉地域観光連絡協議会」事業の一環として設立し、呉地域を舞台とする映画やテレビドラマ等の映像作品の制作に関する支援を通じて、本拠地の特性・魅力を内外に発信し、地域経済の活性化につなげていくことを目的とし事業化された。

活動内容

- ・ 専用 HP の開設、更新作業
- ・ ロケ地のリストアップ及び情報提供
- ・ 道路、公園等公共施設や民間施設の使用に係る申請手続き等の調

整

- ・ ロケ隊滞在のための宿泊施設・関連業者等の紹介
- ・ エキストラ、ボランティアスタッフの登録・手配

エキストラ登録者数 160 名、ボランティアスタッフ登録者数 39 名

- ・ 撮影の立ち合い
- ・ 誘致、広報等

PR はほとんどしていないが、ロケを行ったスタッフの口コミでロケ地の誘致につながっている。

また、行政だけでは対応できない大きなロケには実行委員会を立ち上げ、民間による「映画を支援する会」なども設立された。

効果

(1) 知名度の向上

- ・本市イメージ（独自性）の全国発信
- ・各種メディアによる関連施設（ロケ地、飲食店など）の紹介

(2) 経済効果の創出

・フィルムコミッション事業に特化した具体的な効果の数値化はできないが、平成 17 年、観光元年として「大和ミュージアム」効果、**300 万人**の観光客（前年の倍）、ロケ地聖地巡礼などがある。

- ・入込観光客増加による経済効果
- ・新たな関連商品の開発・販売（呉海軍グルメ、海自カレーなど）

(3) 市民意識の高揚

- ・市民による地域の魅力再発見（両城の **200 階段**、御手洗など）
- ・市民の地域への愛着・誇りの高揚→市民による観光ボランティア

ガイド

今後の課題

- ・地域が有する独自素材の更なる活用・エキストラやボランティアスタッフの安定的な確保

関連する取り組み

平成 28 年度は、呉・広島を舞台にしたアニメ映画「この世界の片隅に」が全国公開され、多数の映画ファンが呉に来ている。フィルムコミッションとして、ロケ地マップの作製等、受け入れ態勢を整える予定だということだ。

「この世界の片隅に」の士官学校など、撮影された場所を市が買い取り保管するなど、文化遺産として残すことを推進している。

また、フィルムコミッションが有ると無いとでは、映画製作のロケ地に対するロコミ評価が違うということである。

栃木県においても、地域の知名度アップ、活性化のためにフィルムコミッションを推進し、矢板市以外の足利市、真岡市、さくら市や多くの市町が積極的に取り組みをはじめている。提案しても否定的な矢板市の姿勢には寂しさもあり、一抹の不安を感じる。